



専門分野
教育学、社会教育学
生涯学習論、スポーツ科学

山田 明（やまだ あきら）

スポーツ学部 教授

大学院スポーツ学研究科 教授

スポーツ政策コース長

地域連携推進センター所長

宗像市社会教育委員

北九州市社会教育委員 等



非常勤講師
福岡教育大学 山口大学
福岡県立大学

BASEBALL



HOME モバイルサイト

一般財団法人
東京六大学野球連盟
Official Website

TOKYO BIG6 BASEBALL LEAGUE

試合 チーム・選手 記録 球場・チケット 連盟紹介

がんばろう! 日本 大学野球
UNIVERSITY BASEBALL

六大学野球部公式ウェブサイト

WASEDA KEIO Meiji HOSEI

福岡市消防局 OR 高校教員



海外へ！



帰国！

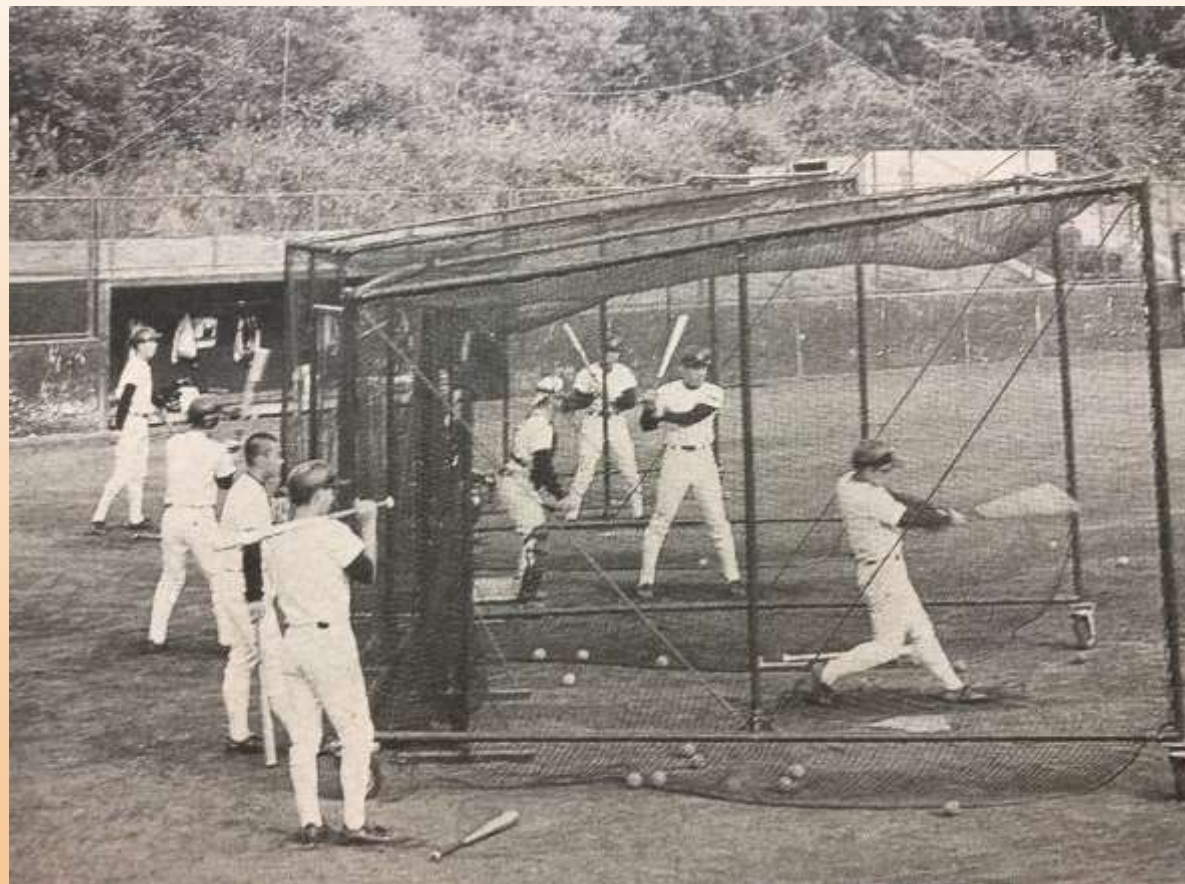


ヨーロッパ（ギリシア・イタリア・スペイン・スイス・ドイツ・オーストリア・フランス・イギリス）・中東（エジプト・バーレーン）・オセアニア（ニュージーランド・フィジー・オーストラリア）・ハワイ・東アジア（中国・韓国・モンゴル）・東南アジア（タイ・シンガポール・インドネシア）・アメリカ合衆国・カナダ・・・

福岡市消防局 OR 高校教員



BASEBALL



RUGBY



大分県柔道連盟
会員之証



JUDO

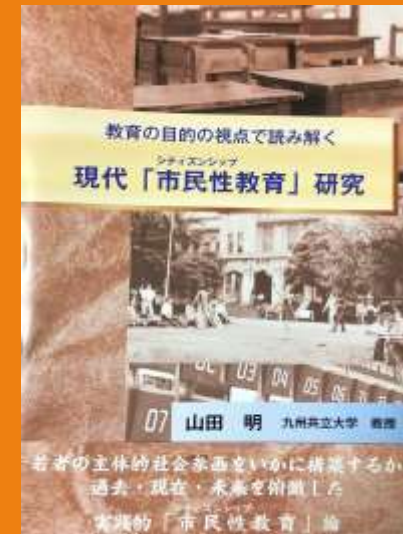


**NEW
ZEALAND**

PRESTON USA



著書



サービス・ラーニング研究

高校生の自己形成に資する教育プログラムの導入と基盤整備

山田 明 著



学術出版

改訂

教育に新聞を

NIEで町づくり

高校生のサービス・ラーニング



NPO サービス・ラーニング・フォーラム代表
福岡教育大学講師

山田 明

「高校生の新聞づくり」で人と地域に豊かな実りを

高校生が書いた記事は実に生き生きしている。彼らが感じた感動を伝える取次も自分から合える。さらにはお茶やお餅の配達、学業助成、秋葉美子が書いた読書会、消えた田舎を
きかれてみたいと思い、お茶を天童市に届けてみたいと思わせるほどの力をもっている。
このような体験学習は、「深い回る学習」といわれたように難しい難関をもっている。しかし
山田明先生は、このための豊富な理論を持ち、それを実践するための手順、すなわち「準備作業」
「行動」、「振り返り」、そして「お祝い」まで、手順から評価に至るまで徹実に実践し、面白かつ、
優れたというものを越えた成果を得ている。

九州大学大学院 田崎 徳友 氏推薦

教育学講義

「教育の目的」



福岡教育大学
山田 明

学術書

教育の目的の視点で読み解く

シティズンシップ

現代「市民性教育」研究



07 山田 明 九州共立大学 教授

若者の主体的社会参画をいかに構築するか
過去・現在・未来を俯瞰した
シティズンシップ
実践的「市民性教育」論

SERVICE- LEARNING

サービス・ラーニング

学位論文関係

米国型サービス・ラーニング理論の導入における一考察
～その意義と今日的課題～

A Consideration of Introducing the Theory of American Way's
of Service-Learning ~It's Significance and Up-To Dates Issues~

福岡教育
大学

現代日本の高校教育改革におけるサービス・ラーニングの研究
(博士論文構想発表会)

九州大学

A Study of Service-Learning Practices of High School in the
USA and Japan

Preston
University
(Ph.D.)

サービス・ラーニングの基礎知識



サービス・ラーニング (SL) の定義

日本生涯教育学会編「生涯学習研究事典（山田明）」より

コミュニティ（地域社会）のニーズを満たした教科カリキュラムと関連したサービス活動を通して、児童・生徒・学生の自己肯定感（セルフ＝エスティーム）や市民性（シチズンシップ）を涵養する学びであり、①事前準備、②活動、③振り返り、④祝福のプロセスを含む社会貢献型の体験学習である。

サービス・ラーニングの歴史

- 1960年代に本格化するアメリカの社会的・経済的衰退、文化的退廃に伴う教育の荒廃
 - ☞ 1983年「危機に立つ国家」(A NATION AT RISK)宣言
 - ☞ 教育改革：市民性（シチズンシップ）の涵養と学力の向上への取り組み
 - ※「規律」と「学力」を焦点化した背景には、子ども中心の進歩的教育理念や「教育の人間化」や「学校の人間化」に象徴される過度の自由放任主義的な教育施策の失敗への反省
- 1980年代のコミュニティ・サービスの奨励
 - ☞ サービス（ボランティア）そのものが義務や強制になじまないとの指摘
- 1990年代にサービス（ボランティア）と学習を関連させたサービス・ラーニングが普及

サービス・ラーニング との出会い

- 1994年に国際交流ボランティアで訪れたアメリカ・シアトルで、サービス・ラーニングが高校や大学で普及していることを知る。
- 同年にホームステイ語学研修の引率で同国のワシントン州タコマ市の高校を視察（TIMBERLINE H.S.）した際、“歳末助け合い／ENRICHMENT PROGRAM”というサービス・ラーニングを見学する機会を得る。
- プロジェクトは、ホームレスや助けを必要としている人へ募金や日常品を配布すること、壊れたおもちゃを修理し、恵まれない子どもたちに手紙を添えてクリスマスプレゼントにする活動。
- この活動では、高校での国語・数学・パソコン・工業・芸術などの学びを活用した社会貢献の学習であった。視察者など外部の訪問者があった場合は、高校生が校内を案内し、活動中のサービス・ラーニングの内容について説明する。これも重要な市民性を涵養するプロジェクトの一環であった。



サービス・ラーニングの学習効果

連邦政府の機関

CNS、NSLC、連邦政府による委託を受けているブランダイス大学等が公表

- 児童・生徒・学生における学力の向上
- 学ぶ姿勢の向上(出席率の向上・退学の減少・暴力の減少)
- 自尊感情・自己肯定感（セルフ=エスティーム）の獲得と向上
- 主体的な社会参加の資質及び能力の向上

例えば、リーダーシップ、コミュニケーション能力、批判的思考力、課題解決能力

- コミュニティ（地域社会）への関心

市民性(シティズンシップ)の資質項目

山田明『高校生に身につけさせたい資質としての「市民性」～その社会的背景と教育的要請』九州教育学会、2005

市民性の大項目	市民性の具体的資質項目	4観点 教育評価
(1) 主体的社会参加の資質	自尊感情・自己肯定感 (Self-Esteem) コミュニティへの意識	
(2) 主体的社会参加の能力 ①自己理解 ②他者理解 ③コミュニケーション・対話 ④サービス (ボランティア)	自主性・倫理観・責任感・協調性 社会的規範力・リーダーシップ	関心・意欲・ 態度
	課題発見力・批判的思考力 課題探求力・判断力	思考・判断
	人間関係能力・発信力・表現力 言語力	技能・表現
	基礎学力の向上・理解力	知識・理解
(3) 政治的知識・スキル	政治 (権利と義務) ・経済・人権 環境・グローバル化	

QCA (QUALIFICATION AND CURRICULUM AUTHORITY)

市民性の資質項目

※QCA: 英国教育省所管の特殊法人

涵養したい市民性	具体的項目
(1) 「成熟した市民」になることについての知識を理解する	コミュニティ（地域社会）・責任 権利と義務・民主主義
(2) 「価値」の多様性を認める	寛容・尊重・道徳・多様性
(3) 「参加と責任ある行動」の技能を身につける	コミュニケーション・社会参加 他者との協働・ディベート（議論交渉能力） 意思決定能力・判断力・IT能力

学生の学習効果における評価方法

評価方法	評価者	評価の観点
自己評価 アンケート (事前事後)	学生 (自己評価)	自己理解・他者理解・問題解決能力・リーダーシップ・情報リテラシー・計画実行能力などのアンケート調査(事前事後、年数回)
活動日誌の評価	教員 学生	ルーブリック評価を活用(事前事後、年数回)
プレゼンテーション 評価	教員 学生(相互)	ルーブリック評価を活用(事後)
インタビュー	教員	質問要項に基づくインタビュー(常時) ※活動日誌の活用
地域(自治体)による評価	地域社会 自治体	満足度アンケート(事後) 学生への評価、プロジェクトへの評価(年数回)

山田明のSLマネージメント



NPO サービス・ラーニング・フォーラム

Service Learning Forum
in **MUNAKATA**



EST.2004

地域連携

大 学	学 生	地域社会・自治体
<p>COC Center of Community 「知の拠点」として 地域貢献（社会貢献）</p> <p>* 大学と地域の隔たりに 橋を渡す</p> <p>* 社会教育・生涯学習論 ▣ 地域連携</p>	<p>市民性（シティズンシップ） の涵養</p> <p>地域課題に関する気づき ・ 継続性ある活動への認識</p> <p>※市民になる学び Project Citizen</p> <p>※社会を生き抜く底力</p>	<p>地域活性化 まちづくりの進展</p> <p>* 地域資源（魅力）の再発見</p> <p>* 地域住民の反応</p> <p>※ Civic Pride</p>

大学と地域社会のアセスメント

観 点	項 目
連携関係	①連携構築のプロセス
	②プロジェクトの事例
	③メリット・課題
相互作用	①大学の地域社会への関心（行事や活動）
	②大学の地域社会への関与
	③地域社会の大学への関心（行事や活動）
	④地域社会の大学への関与
	⑤連絡体制
満足度	①共通の関心
	②相互依存・互惠
	③改善意欲
持続可能性	①連続性
	②発展性

地域連携

バーグストローム (BERGSTROM) 1995

	連携のレベル		連携の目的
1	ネットワーク	Networking	情報交換・親睦 情報収集・蓄積 互いが助け合う基盤形成
2	協力・協調	Cooperation / Alliance	二ーズの結び付け・対等の連携関係の構築 連携機関の課題達成の支援 互いが提供する事業内容の重複を避ける
3	調整・パートナーシップ	Coordination Partnership	共通の課題解決を目的に互いの資源を出し合う 新たな創造を目的に互いの資源を出し合う
4	連合	Coalition	同じ理念の共有 既存の制度から資源を再発見し確保する 3年間以上の連携活動を目指す
5	協働（地域連携協定） *九州共立大学と岡垣町	Collaboration	共通の課題の達成 課題の解決・活動機会の確保・拡充 双方が依存しあえるシステムの構築

地域連携プロジェクト（事例）年間約32事業

1	北九州シニアネットワークアカデミー／高齢者対象の講座（生涯学習）
2	スポーツ・カレッジ
3	地域コミュニティ・セミナー
4	北九州マラソン
5	北九州市民カレッジ（生涯学習）
6	北九州市立年長者研修大学校穴生学者舎研修（地域ふれあいコース）
7	北九州市立年長者研修大学校穴生学者舎研修（心と身体の健康コース）
8	知的障がい・発達障がい児対象ニコニコ体操教室
9	香月・千代ジュニアスポーツ体験教室
10	堀川まちおこし事業（堀川まちおこしいっせい清掃）
11	シニア健康教室
12	スポーツごみ拾い大会（折尾まつりを盛り上げよう） スポゴミ！
13	芦屋海岸砂浜づくり（砂像）
14	太陽光と風力を用いた親子ものづくり教室
15	シニアサマーカレッジ（高齢者対象の生涯学習）
16	第12回ボランティアフェスタ八幡西

ケース・
スタディ
CASE STUDY



大学及び大学生への期待

- 専門性の向上
- 地域づくりや社会貢献の意義の深化
- サービス・ラーニング・センターとしての機能を
含めた実践活動（COC）

CENTER OF COMMUNITY



筑前大島における学生による
健康スポーツを通じた
地域活性化 2018~2022

世界遺産！筑前大島（福岡県宗像市）



沖津宮遙拝所



沖津宮遙拝所からは空気の澄んだ日に限りはるか水平線に沖ノ島を望むことができます。

通常は沖ノ島に行くことが出来ませんから、沖津宮はここから遙拝します。

中津宮



中津宮は次女の湍津姫神を祀っています。

七夕祭発祥の地ともいわれており境内には天の川や織女社、牽牛社などがあります。

また中津宮本殿は再建時期や屋根に載る鯉木が珍しいことから県指定建造物となっています。

大島御嶽山遺跡の発見により、御嶽山山頂から中津宮を結ぶ山道を含め国の史跡「宗像神社境内」として指定されました。

大島プロジェクト

1. 地域社会のニーズ（離島における健康問題）と
課題解決への地域貢献
2. 学生における市民性（シティズンシップ）の涵養
3. 行政と協働（地域連携）～宗像市「元気な島づくり事業」～

1 気づく!

からだを動かす機会や環境は、身の回りにたくさんあります。それが「いつなのか?」「どこなのか?」、ご自身の生活や環境を振り返ってみましょう。



きっかけづくり

3 達成する!

目標は、1日合計60分、元気にからだを動かすことです。高齢の方は、1日合計40分が目標です。これらを通じて、体力アップを目指しましょう。

18歳～64歳

運動で体力アップ

1日8,000歩
が目安です

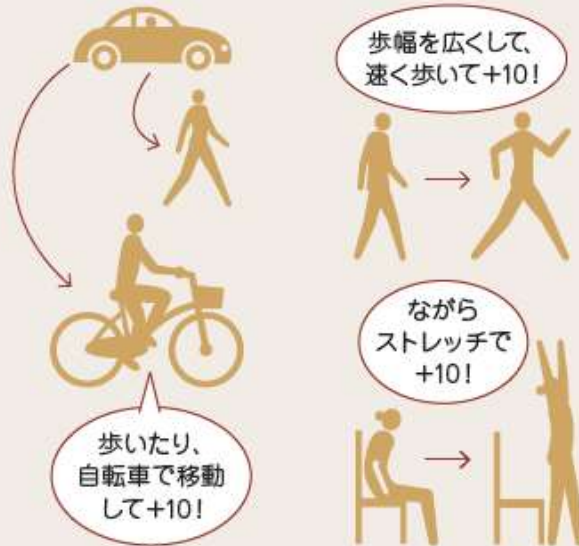
じっとしている
時間を減らして、
1日合計40分は
動きましょう

65歳以上

継続事業として実施

2 始める!

今より少しでも長く、少しでも元気にからだを動かすことが健康への第一歩です。+10から始めましょう。



《連携》 大島保育園 大島コミュニティ

4 つながる!

一人でも多くの家族や仲間と+10を共有しましょう。一緒に行くと、楽しさや喜びが一層増します。



大島プロジェクト（サービス・ラーニング）

	活 動	具体的内容
1	関係する科目（カリキュラム）	スポーツ科学・社会体育論・生涯スポーツ論
2	サービスの種類	健康・スポーツ支援及び指導
3	必要とされる資源	施設及び会場（自治体や学校等）・用具（学校及び保健所）
4	準備	学習プログラム（支援・指導案）の作成・事前予行 会場調査・用具の準備
5	活動	健康・スポーツの企画・運営
6	振り返り	アンケート、サービス・ラーニング日誌、ミーティング 参与観察
7	お祝い	活動報告書及びDVDの作成・自治体及び学校等への報告 活動報告会・表彰

宗像市「元気な島づくり事業(大島プロジェクト)」概要

「元気な島づくり事業」(福岡県宗像市)の採択

- 福岡県宗像市にある筑前大島は世界遺産に登録され有名。
- 島の課題は、人口減少(40年間で半減)、高齢化(43.9%)、医療機関の不備による健康不安、青少年育成、世代間交流の不足。
- 地域課題を克服しながら島の活性化をサポートする施策が宗像市の「元気な島づくり事業補助金制度」。
- 5年間継続の長期プロジェクトが可能となる制度。
 - 本プロジェクトは、九州共立大学に在籍するスポーツ学部生が島民に対して**専門分野の健康スポーツ支援**を学生ボランティアとして実施する趣旨で採択されたサービス・ラーニング(社会貢献学習)である。



大島プロジェクトの目的

大島の高齢化に関する課題に対し

●離島の自立的発展と島民の健康づくりの促進を図るため、スポーツを通じた健康及びコミュニティづくりに関する活動を行う。

●世代間交流も視野に入れ、幼児が高齢者と関わる機会の設定、子育て中の保護者同士のコミュニティづくりにも取り組む。

学生が大島のすべての世代を対象とした健康スポーツ支援を行うことで地域貢献をする。





体力測定
体支持持続時間



体力測定
テニスボール投げ



バランス能力



体力測定
反復測定



チームプレイ



コーディネーション能力



楽しさ



敏捷性



挑戦

事前調査（ニーズ調査）

●事前準備として島民100名（回答81名）に健康スポーツアンケートを実施

- ①島民の93%が運動の必要性を感じている
- ②島民の70%が運動不足の現状を自覚している
- ③プログラムとして参加したい運動として、球技(バレーは大島の地域スポーツ)、体操、ウォーキングなど手軽で継続できる種目を望んでいる
- ④スポーツでの世代間交流が「ある」49%、「ない」51%との回答があり不足している。

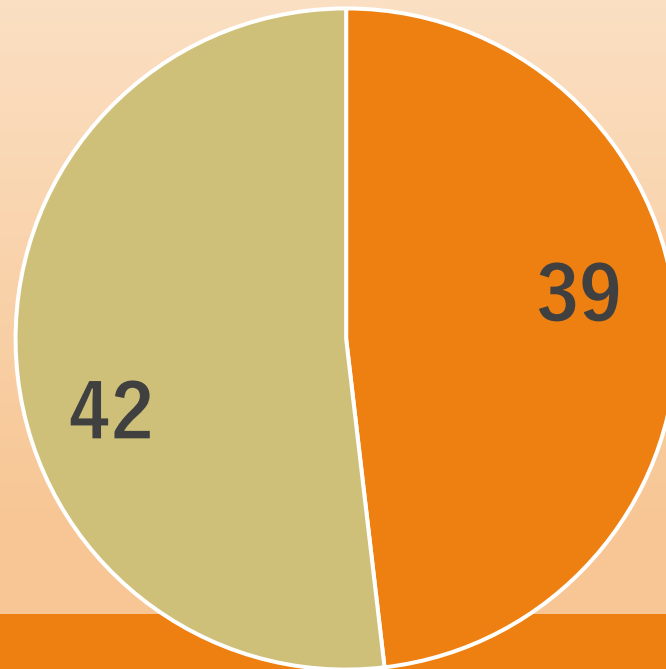


筑前大島における住民アンケート（健康・スポーツ）

2018年4月／81名

回答者数（人）

■ 男 ■ 女

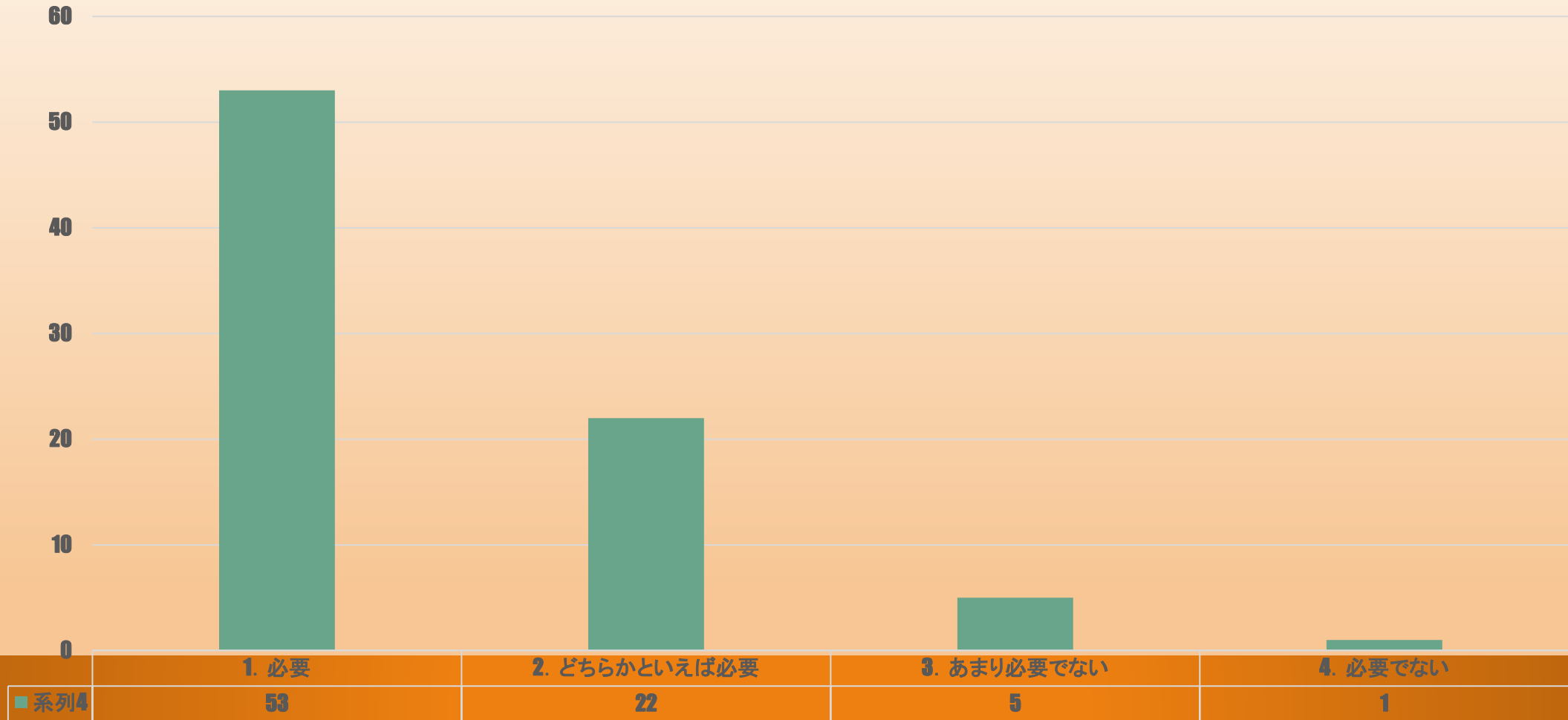


回答者の年代(人)

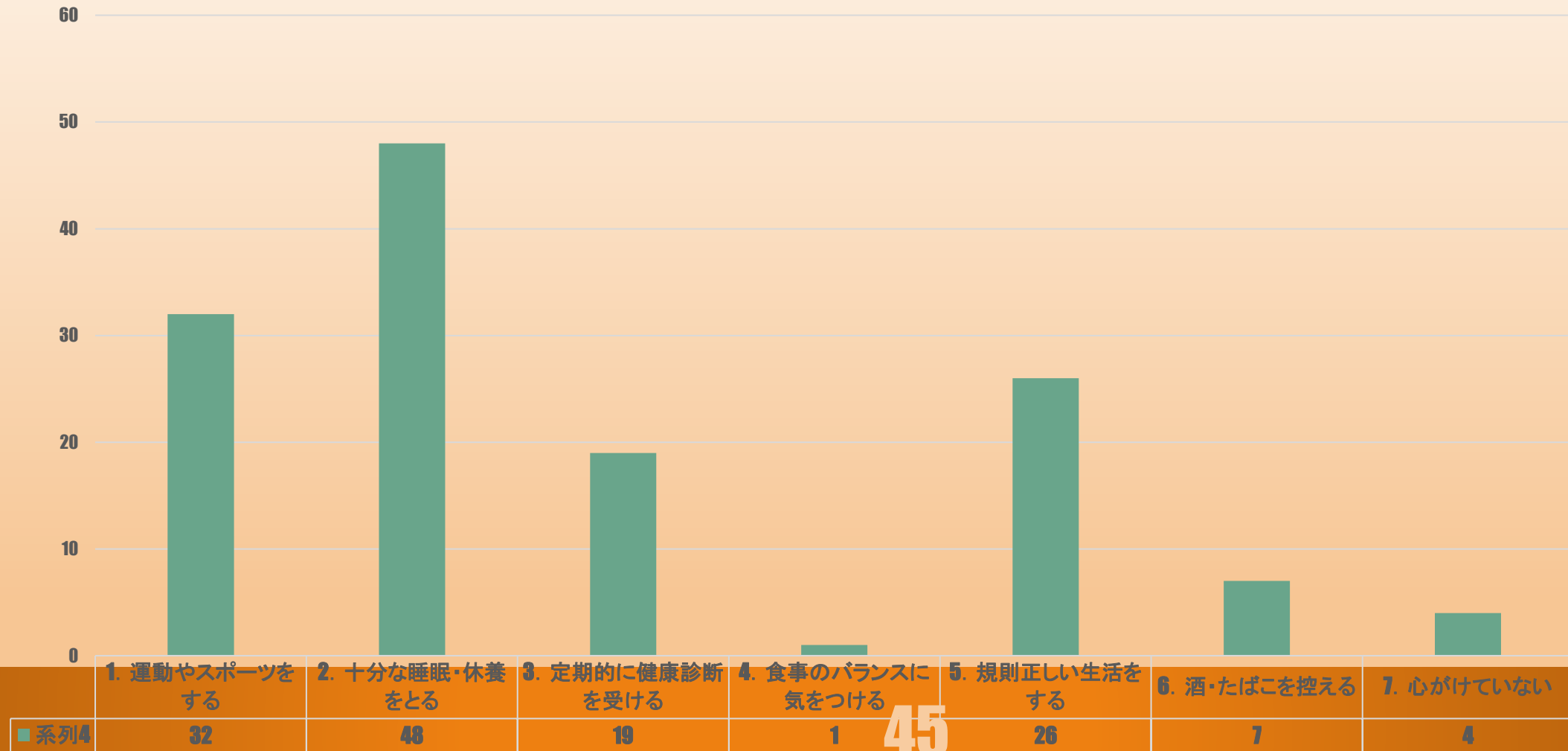


あなたは健康の維持・増進に身体を動かす運動が必要だと思いますか？ (人)

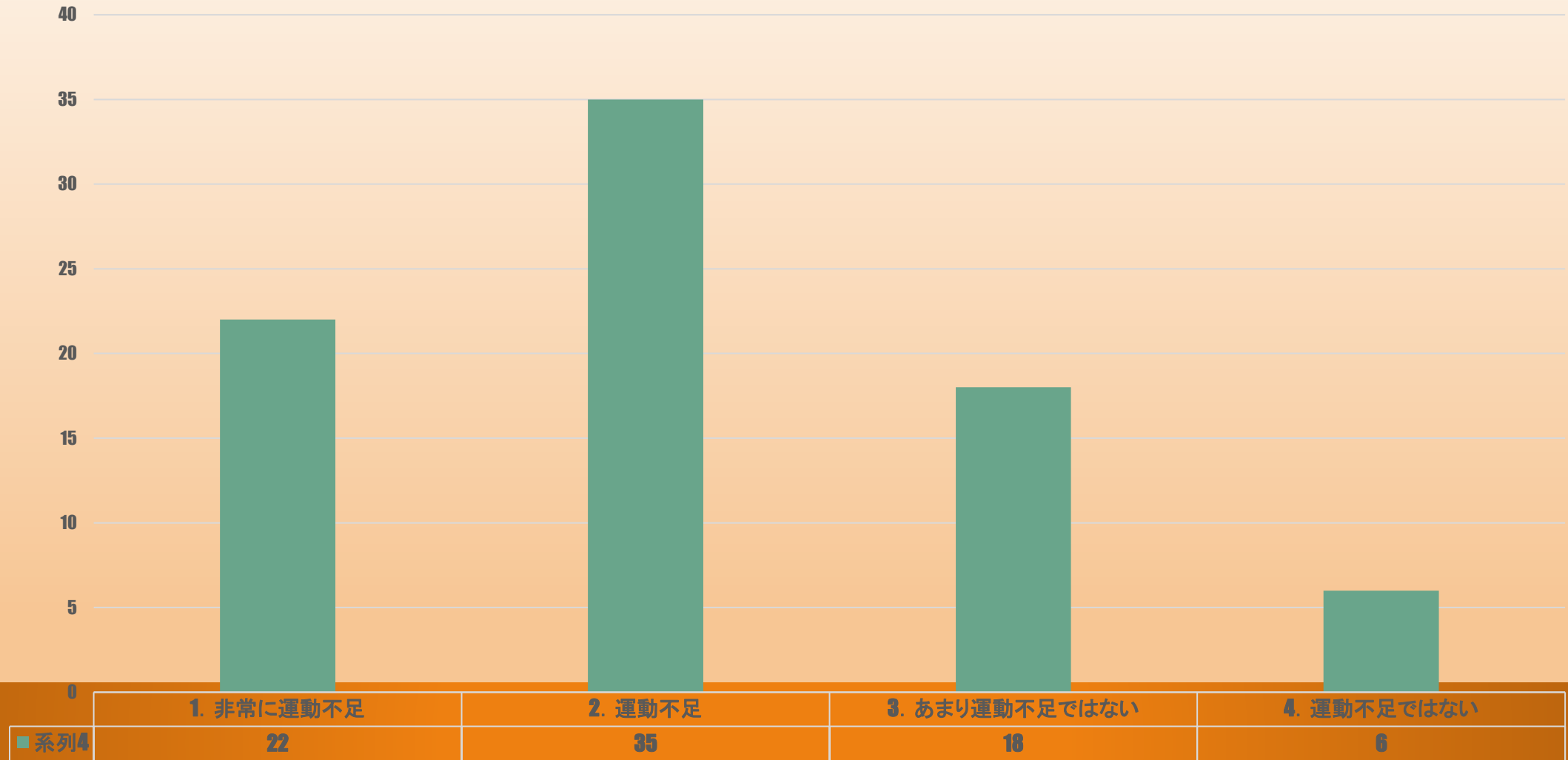
グラフタイトル



あなたは健康の維持・増進のために、心がけていることは何ですか？ (人) *複数回答

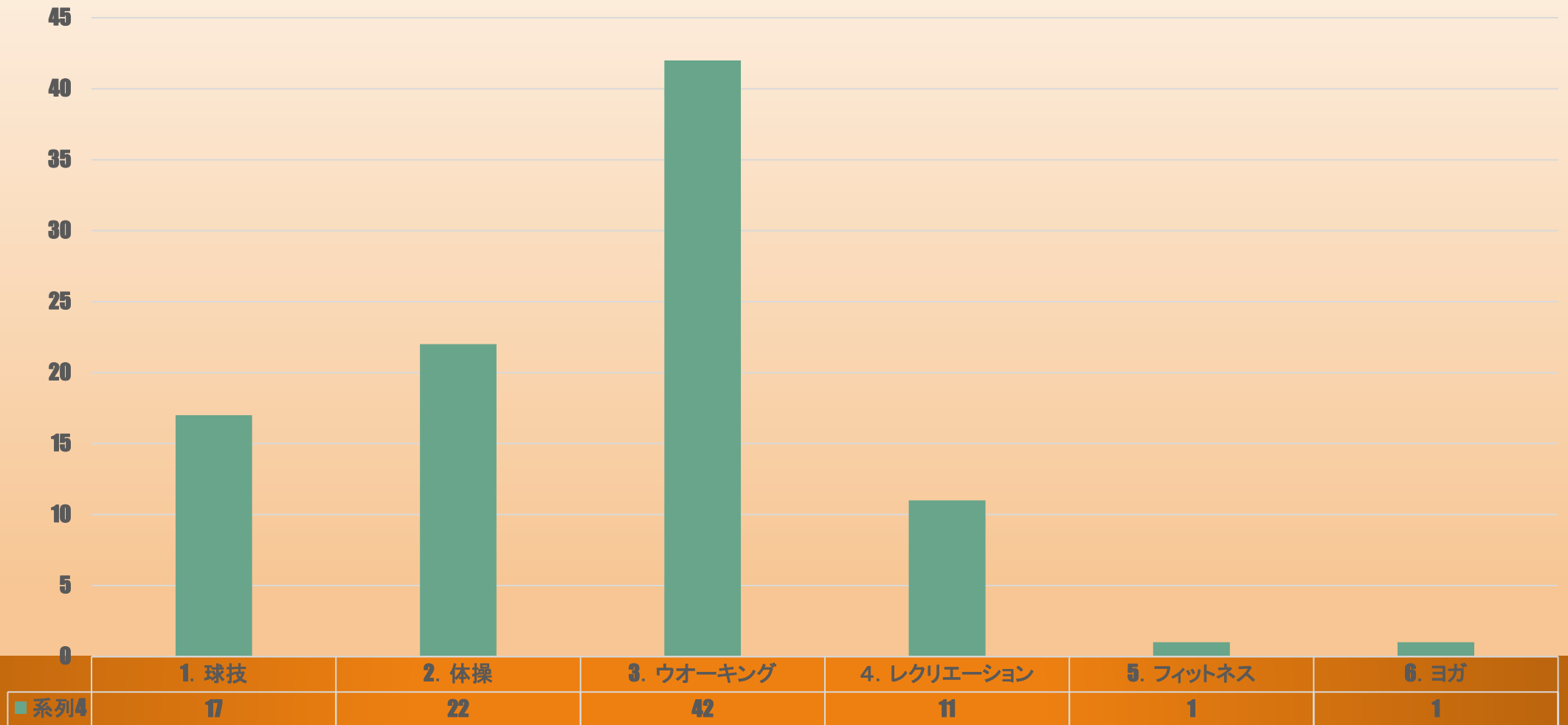


あなたは自分のことを運動不足だと思いますか？（人）



あなたはどのようなプログラムが必要だと思いますか？（人）

* 複数回答




事例 保育園児・高齢者対象プログラム





学習プログラム (保育園児)

学習指導案

実施日：平成30年7月11日 水曜日、		場所：大島保育園	学生スタッフ 新田・松永・榎菜・岩下・大興・平
対象：年中・年長組			
単元名：跳び箱・マット運動		配当時間	1時間
本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・保育園児が、学生スタッフやお友達との触れ合いを感じながら活動を行うことができる。 ・保育園児が、普段とは違う種類の運動を通して新たな遊びの楽しさを感じることができる。 			
用具・教具			
過程	学習内容・学習活動	指導の手立て・指導上の留意点	
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶、自己紹介等 ・今日は、跳び箱をずると伝える ・健康状態の確認 ○用具の準備 ・体操 (足踵一伸縮一アキレス腱一肩入れ一前屈後屈一手首足首一首回し) マットの上でストレッチ ・首や手首のストレッチ(自分の体重をかけて) ○犬になろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を見ながら行う。 ・カウントするように促す。 ・ストレッチをずる際は息を吐きながら行うように促す。 ・犬さんになって歩く。 ・膝を床につけて、四つん這いになって歩く。 ・クマさんの導入ですから自由に楽しく行う。 ・手の開いて歩くポイントを教える。 	



学習プログラム (保育園児)

展開 ○クマになろう



- クマさんになって歩く。
- 膝を床から離して、腰を高く上げて四つん這い歩く。
- クマは犬より大きいのっしのっしと歩く。
- ビニールテープで20cm位の幅を持たせて線路を作り、クマさん電車に変身して歩く。
- 手と足が線から離れないようにバランスをとって慎重に進む。
- *ゲーム形式でじゃんけんする。
- 片足クマさんに変身して線路を歩さく。
- 上にあるものよりバランスが悪くなるので、ゆっくりと進んで構わない。
- *ゲーム形式でじゃんけんする。

○カエルになろう



- カエルさんになって、線路の中に手をつけて、足は線路の外に来るようにする。
- 手、足、手、足・・・の順番で進んでいく。
- 跳び箱を跳ぶときと同じ動きになる。
- *ゲーム形式でじゃんけんする。
- 手を床にしっかりとつき、両脚を同時に高く振りあげた瞬間に足の裏を打つ。



学習プログラム (保育園児)

○足たたき



- 腕にかかる負荷が大きくなっていくのでマットの上などで行う。
- カエルさんになったら、跳び箱に座って一休もう。
- 開脚跳びに移行する前にこれを行うことで、足を開くことを覚え、跳び箱に対する恐怖感が和く。

○跳び箱に座ろう



- 両脚で踏み切って、跳び箱の上に乗る。
- 前方向に倒れてしまう子もいるので、補助を忘れないようにする。
- 補助や助言をしながら飛べるようにすることと、飛べる子にはほめることで向上心を持たせる。

○カエルでのろう



- 1、お互いに足首を握り合う。
- 2、二人で協力しバランスを取り合う。
- 3、声を掛け合いながら息を合わせ、前転を行う。

- * ふざけるととても危険なため真剣に取り組ませる。
- * 掛け声を掛け合いながら協力させて行う。
- * できない子、苦手な子へは個別に指導する。

まとめ

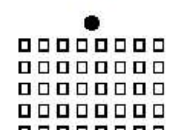
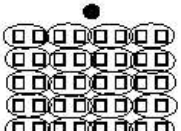
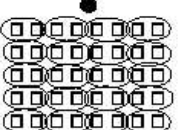
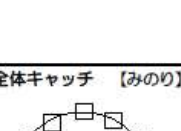
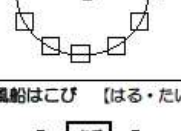
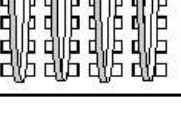
○最後に跳び箱を飛んでみよう



○片づけ ○整理運動
けがや健康状態の確認 ○挨拶

学習プログラム (高齢者)



時間	活動内容	ルール・留意点
	① あとだしじゃんけん 【はる】 	○指導者 vs 全体で行う ○かけ声「最初はグーじゃんけんぽい ぽい」 全体は2回目の「ぽい」で出す ○1回戦「私と同じものを出してください」×3 2回戦「私に勝ってください」×3 3回戦「私に負けてください」×3
	② 2人組キャッチ 【みのり】 	○2人組をつくり向かい合う ※学生が動き、ペアが変わるようにする ○右手は人差し指を出し、左手は輪っかをつくる 相手の輪っかに人差し指を入れる ○指導者の「キャッチ」の声で 右手は逃げて、左手は相手の指をつかまえる
	③ じゃんけんパチン 【たいき】 	○2人組をつくり向かい合う ※学生が動き、ペアが変わるようにする ○左手を合わせ、右手でじゃんけんをする 勝ち：相手の左手をパチンする 負け：左手を引きパチンされないようにする
	④ じゃんけん列車 【ともか】 	○歌に合わせて行う ○勝ち続けたチャンピオンを決める ○最後は大きな円になる ※車いすの方がいけば補助をする
	⑤ 全体キャッチ 【みのり】 	○円になって中心を向く ※じゃんけん列車の終わりの形のままだま行う ○右手は人差し指を出し、左手は輪っかをつくる 右の人の輪っかに人差し指を入れる ○指導者の「キャッチ」の声で 右手は逃げて、左手は相手の指をつかまえる
	⑥ 風船はこび 【はる・たいき】 	○4 チームに分かれる ※席は動かさず、学生が人数を合わせる ○チームで1つの風船をはこび、 最後は指導者の横のかごに入れる 1番早く風船をかごに入れたチームが勝ちとする ※風船は投げずに、手渡しするようにする

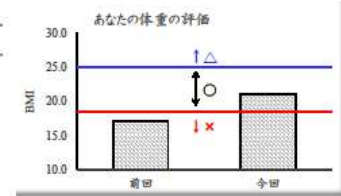


大島健康プロジェクト シニア体力測定結果

氏名	はなだ みちお 花田 道夫	性別	男性	生年月日	昭和11年12月14日生 82歳
70の歳まであと 6521日 日本には100歳以上の方が約7万人います。					
身長	前回	167.2 cm	体重	前回	48.0 kg
	今回	167.2 cm		今回	59 kg
BMI	前回	17.2 kg/m ²	BMI	前回	17.2 kg/m ²
	今回	21.1 kg/m ²		今回	21.1 kg/m ²

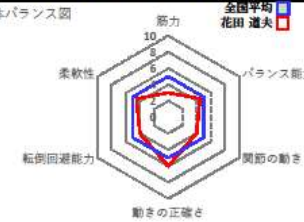
あなたの体重の評価は、標準体重です。
あなたの理想体重は、61.5 Kgです。

高齢者の肥満死亡の原因には直接的な関連性は低く、むしろ痩せている場合に死亡リスクとの関連性が高いと報告されています。高齢になると、歩行などの運動を行わないと筋肉の量が減ります。



今回の測定種目	あなたの結果	得点(10点満点)	日本人の平均値
握力(筋力)	前回の結果	33.5 kg 3点	29.0 ~ 33.8 kg
	今回の結果	27.5 kg 2点	
開眼片足立ち(バランス能力)	前回の結果	8 秒 4点	10 ~ 17 秒
	今回の結果	21 秒 2点	
10m障害歩行(股関節の力)	前回の結果	10.2 秒 3点	8.9 ~ 10.4 秒
	今回の結果	13.0 秒 1点	
2ステップ(足の柔軟性・バランス・柔軟性)	252.0	7点	232.4 ~ 244.1 cm
手組作業能(指の正確性)	28.0 秒	10点	41.5 ~ 43.3 秒
上体起こし(お腹の筋肉の力)	3 回	3点	7 ~ 9 回
足把持力(足の指の力)	15 kg	4点	16.6 ~ 18 kg
Fリーチ(転倒予防能力)	35 cm	6点	30.0 ~ 32.0 cm
長座体前屈(体の柔らかさ)	25 cm	2点	30.0 ~ 33.0 cm

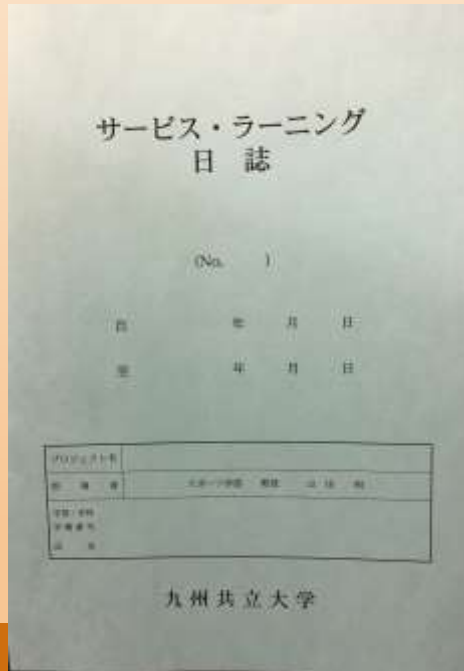
体バランス図



体バランス図の見方
 ◎ 筋力(重たいものを持ち上げる能力)
 ◎ バランス能力(脳と体をつなぐ神経の正確さ)
 ◎ 関節の動き(股関節の柔軟性)
 ◎ 動きの正確さ(細かな動きを正確に行う能力)
 ◎ 転倒予防能力(足素早く引き上げる能力と反応)
 ◎ 柔軟性(筋肉の柔らかさ)
 赤で描かれたところがあなたの結果です。赤の型がなるべく六角型になっている方が良いでしょう

振り返り

サービス・ラーニング日誌



学生による教員による振り返りシート

実施日時	平成30年7月11日(水) 8:00~14:30
実施場所	大島保育園/大島コミュニティ・センター(福岡県宗像市)
実施対象	大島保育園児/年少組、年中組、年長組
学生ボランティア	15名(2年2名、3年11名、4年2名)
指導教員	山田、花田、小丸
地域の関係者	保育園4名(園長を含む)、コミュニティ・センター事務局長

学生による振り返り

(1) 年少組

①大島の園児とふれ合う中で、準備していた活動案だけでなく、園児の興味・関心や身体の動きを見て、臨機応変にプログラムを追加することができた。その際に、学生スタッフ同士でコミュニケーションをとりながら活動できた。不十分ではあったが、対応することができたことが大きな学びになった。また準備の在り方についても、様々なケースを想定して準備をすることの重要性にも気が付いた。

②園児とのコミュニケーションの取り方、特に言葉かけがうまくできなかった。日頃の先生、家族、友人等との言葉のやり取りではうまくいかないこと、特に年少組は学生スタッフを怖がる様子も見え、優しく語り掛けること、理解しやすい言葉に置き換えることなどの工夫が必要なのことがわかった。

③園児とのコミュニケーションでは、園児と学生スタッフの姿勢が難しかった。目線を併せる姿勢や、安心させる姿勢など身体活動を学ぶスポーツ学部生としての課題も見えた。

④園児と打ち解ける前(導入プログラム)に圧力をかけてしまったので展開にスムーズ移れなかった。

⑤プログラム中の学生スタッフと保育士さんとの関係については、保育士さんが学生スタッフの活動を見守ってくれ、学生スタッフに指示を控えてくれたことで、学生スタッフは自分たちで考え相談しながら活動することができた。学生スタッフと保育士の先生との事前の打ち合わせや連携が足りなかった。

(2) 年中・年長組

①跳び箱・側転・前転など専門種目プログラムの指導を実施したが、指導前後で技術を向上する園児が多く、上達するポイントを指導することの効果を生徒スタッフとして体感した。

②プログラムを指導する前に、その準備となる身体活動を実施した。楽しい遊びを通して専門種目に導入しようと思図したが、十分に園児が反応してくれず他者(特に幼児)への指導の難しさを感じた。

③最初に学生スタッフが見本(モデル)をみせたことで、園児が感動し動機付けになったようである。

④プログラムの内容を園児に説明することが難しかった。園児とのコミュニケーションの取り方を保育士さんに学ぶ必要があると思った。

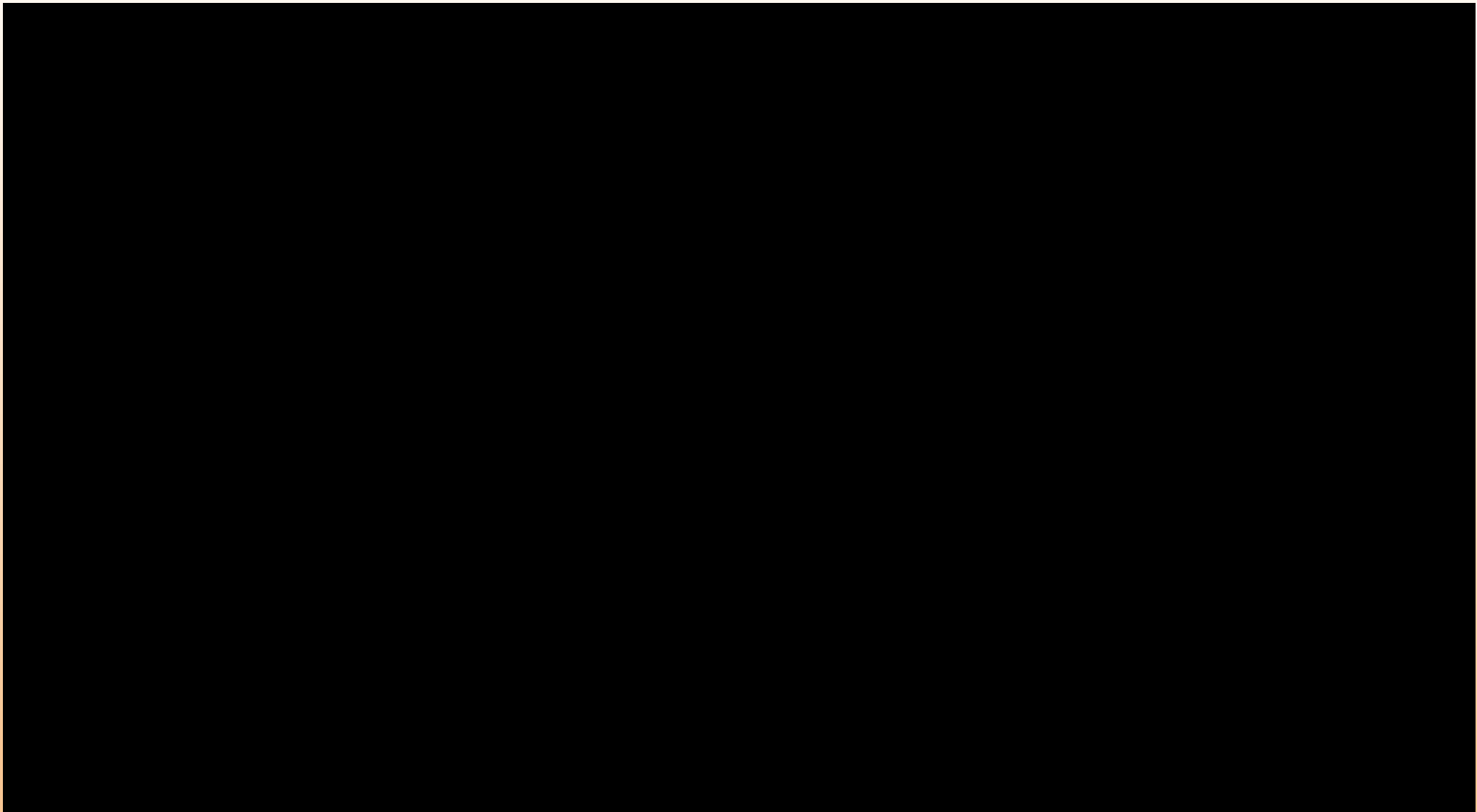
⑤プログラムの質と量を十分に準備する必要がある。良くできる園児が退屈する場面が見られた。

(3) 全体

①学生スタッフとして、第一に気をつけることは、明るく園児と接することが基本であるとわかった。

②準備の段階における活動案作成の重要性が理解できた。

③保育園児への指導について、学生スタッフ個人としての動きやグループでの役割としての個人の動きなどシミュレーションが必要だと感じた。





学生の学びの効果 2019年12月 事前事後アンケート T検定





課題解決能力（自己評価）

*** (P<0.01) ** (P<0.05) * (0.05<P <0.10) N=26< (%)

質問項目	選択肢	事前	事後	有意差
【課題解決能力】 1 私は、目標を達成するための効果的な活動を工夫することができる。	全然該当しない	8	8	**
	あまり該当しない	62	31	
	該当する	15	38	
	良く該当する	15	23	
	大変よく該当する	0	0	

計画実行能力（自己評価） *** (P<0.01) ** (P<0.05) * (0.05<P <0.10)

N=26(%)

質問項目	選択肢	事前	事後	有意差
【計画実行能力】 1 私は、将来のことをいつも視野に入れることができる。	全然該当しない	4	0	**
	あまり該当しない	34	12	
	該当する	46	65	
	良く該当する	16	19	
	大変よく該当する	0	4	
2 私は、計画したことを行動に移す資質や能力がある。	全然該当しない	23	8	*
	あまり該当しない	23	19	
	該当する	38	35	
	良く該当する	12	30	
	大変よく該当する	4	8	

コミュニケーション能力（自己評価） <1>

*** (P<0.01) ** (P<0.05) * (0.05<P <0.10) N=26%

質問項目	選択肢	事前	事後	有意差
【コミュニケーション能力】 1 私は、自分の考えを他者と議論したり、 伝えたりすることができる。	全然該当しない	27	4	**
	あまり該当しない	27	15	
	該当する	35	54	
	良く該当する	11	23	
	大変よく該当する	0	4	

コミュニケーション能力（自己評価） <2>

*** (P<0.01) ** (P<0.05) * (0.05<P <0.10) N=26(%)

質問項目	選択肢	事前	事後	有意差
【コミュニケーション能力】 2 私は、他者との議論で、自信をもってその人を引き付けることができる。	全然該当しない	38	23	***
	あまり該当しない	34	19	
	該当する	12	27	
	良く該当する	12	27	
	大変よく該当する	4	4	

コミュニケーション能力（自己評価） <3>

*** (P<0.01) ** (P<0.05) * (0.05<P <0.10) N=26(%)

質問項目	選択肢	事前	事後	有意差
【コミュニケーション能力】 3 私は、他者の話に耳を傾けることができる。	全然該当しない	27	15	**
	あまり該当しない	34	15	
	該当する	27	54	
	良く該当する	8	12	
	大変よく該当する	4	4	

学生の活動日誌（SL日誌）にみる学びの効果Ⅰ

（1）「地域社会を身近に感じるようになったか？」

- ①地域の住民と会話ができたことにより、その人たちの地域への思いや考えを知ることができた。
- ②今までボランティアの経験がなかったので、経験する機会をもて地域社会を身近に感じた。
- ③地域に密着した活動の経験により、自分の育った地域のことと比較しながら考えることができ、地域の在り方を身近に感じた。
- ④離島という小さな地域の中で生活している住民の方と関わったことで、人の繋がり的重要性をより身近に感じた。
- ⑤地域の人との交流があり、地域の実態やニーズを知ることができた。

学生の活動日誌（SL日誌）にみる学びの効果Ⅱ

（2）「ボランティアを通して、どのような資質能力が身に付いたと思うか？」

①地域の課題を知ろうとする精神

②各世代を対象とするボランティアに参加したことで、今回は保育園児や高齢者の方との関わり方を学んだ。その中で、困難な体験も経験した。

③私たちはスポーツ学部に在籍しているので、大学で学んでいる健康やスポーツを実践したことにより授業の理解が深まった。

④地域の特色や魅力を感じる力、コミュニケーションや対話力。

⑤地域の良さや魅力を発見する力、そのことを地域の課題解決に活かそうとする企画やアイデアを考える力。

⑥活動する学生、地域の方との協働でこの活動が成り立っているので、協調性を一番学んだ。

⑦自主的、積極的に動く行動力。



島民の満足度(アンケート)



地域社会の満足度

- ①ボランティアに積極的に関わろうとしている姿が学生らしく印象的だった。
- ②保育園やコミュニティ(行政)ではできないことを、ボランティアの学生が協力してくれたことにより実施できて助かった。
- ③保育園児に教えてくれた跳び箱やマット運動など、技術的な助言で短時間で上達することができ、園児も喜んでいて。次回はもっと難易度の高い技術を教えてほしい。
- ④高齢者向けのオリジナル体操は、これからも指導してほしい。
- ⑤高齢者に紹介してもらったスポーツ吹き矢は、健康のためにも玄寿会(老人会)で取り上げたい。
- ⑥全島運動会での運営ボランティアは、終日活動してもらいその成功に貢献してくれた。



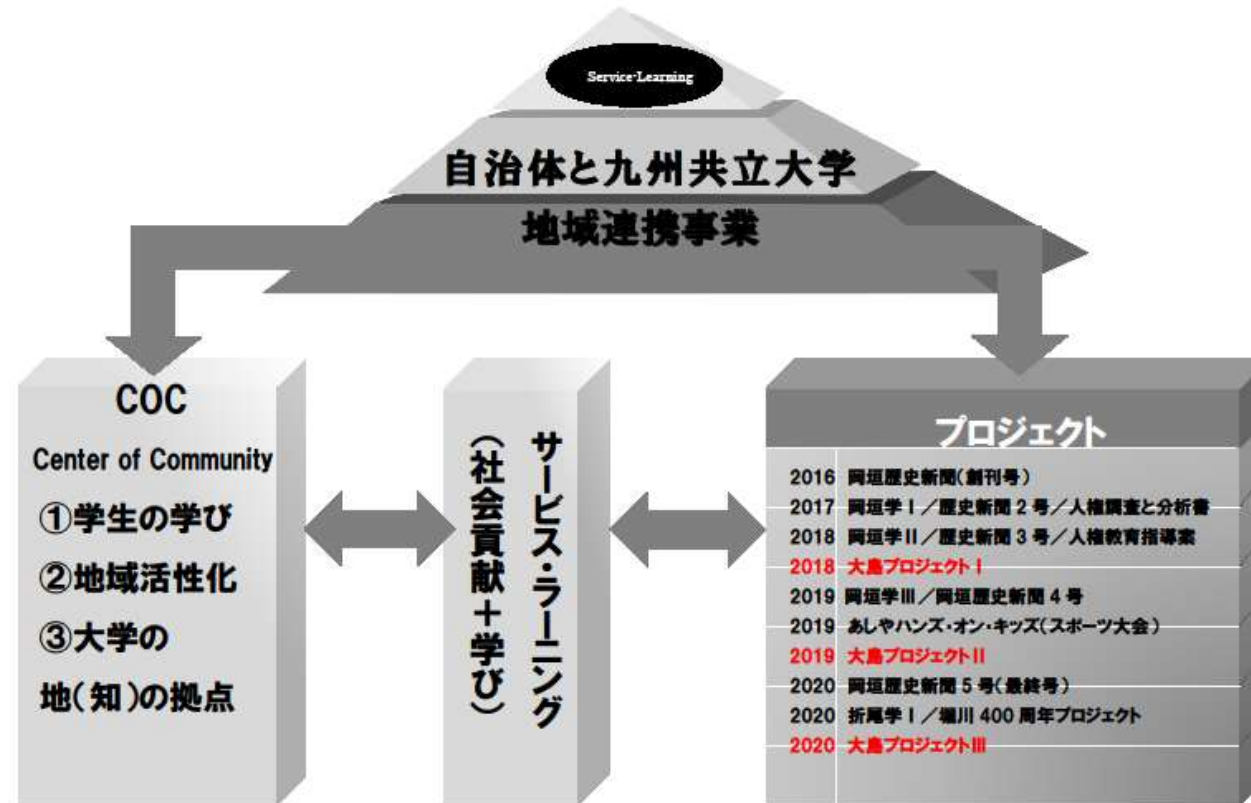
九州共立大学スポーツ学部
山田研究室
花田研究室



活動報告書提出・祝賀会



SLプロジェクト (2016~)



サービス・ラーニング・プロジェクト（長期）

1 岡垣プロジェクト：①地域活性化新聞（岡垣歴史新聞）、②岡垣学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、③人権教育

④自治会加入率向上

2 大島プロジェクト：離島における健康・スポーツを通じた地域活性化（5年）

3 芦屋プロジェクト：①青少年育成（あしやハンズ・オン・キッズ・スポーツ大会）

②自治会加入率向上

4 折尾プロジェクト：①折尾学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、②堀川400周年記念プロジェクト

③折尾駅高架下活用プロジェクト

サービス・ラーニングの日本的課題

1 プロジェクト

- (1) ニーズ調査プロジェクト部門の構築
- (2) 学生が身につけたい市民性【シティズンシップ】の資質・能力に沿って選択できるプロジェクトの提供（プロジェクト・モデルの構築）

2 マネジメント

- (1) 相互作用・互惠作用／地域連携とアセスメント評価
- (2) 米国型でない日本型のコーディネート（評価「祝福」）
- (3) 地域ボランティアの課題【次世代のリクルーティング】

九州共立大学 サービス・ラーニングの課題

大 学	学 生	地域社会・自治体
<p>* 継続性のある事業とするためには恒常的な予算が必要。</p> <p>* 大学側の関連する窓口の複雑性 地域連携推進センター、学部、サークル、教員・・・</p> <p>* プログラミング 活動内容の魅力を高める工夫や、学生が身に着きたい資質・能力の視点で、（学生が）選択できるモデルプロジェクトを提供する準備が必要。</p>	<p>* 継続性ある活動への見通し （イベントでは真の地域活性化にならない）</p> <p>* 参加学生の募集 問題意識のある学生が参加する傾向にあるので、学習効果も向上しやすい。いかに問題意識を持ち得ていない学生や活動機会を見つけていない学生に参加機会を提供し、市民性の向上に結び付けていく。</p>	<p>* 行政の地域連携に関連する組織と予算が十分でない。</p> <p>* 窓口の複雑性 広報情報課、生涯学習課、町づくり推進課等業務を担当する部署が統一されていない場合が多い。</p> <p>* 自治体における広報の課題 学生の活動を住民に効果的に伝える方法、例えば、紙媒体の情報誌だけでなく、HP・SNSなどを効果的に活用する。</p>

最後に

●プロジェクト構築

若者を市民へ（社会的有効性意識と社会貢献意識）

自尊感情（自己肯定感）を高める活動 ▣ 人が人として生きるための基盤

学問分野をサービス・ラーニングに転換する発想と実行力 ▣ 教員

●マネジメント

地域連携の工夫



日本の研究.com
research-er.jp



「市民性における人権意識の涵養に資するサービス・ラーニングモデル構築に関する研究」

(研究代表者 山田明)

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2018~2020



九州共立大学
KYUSHU KYORITSU UNIVERSITY



ご参加ありがとうございました！



FIN